

# 消費税率引上げ後の消費動向等 について（6月第3週）

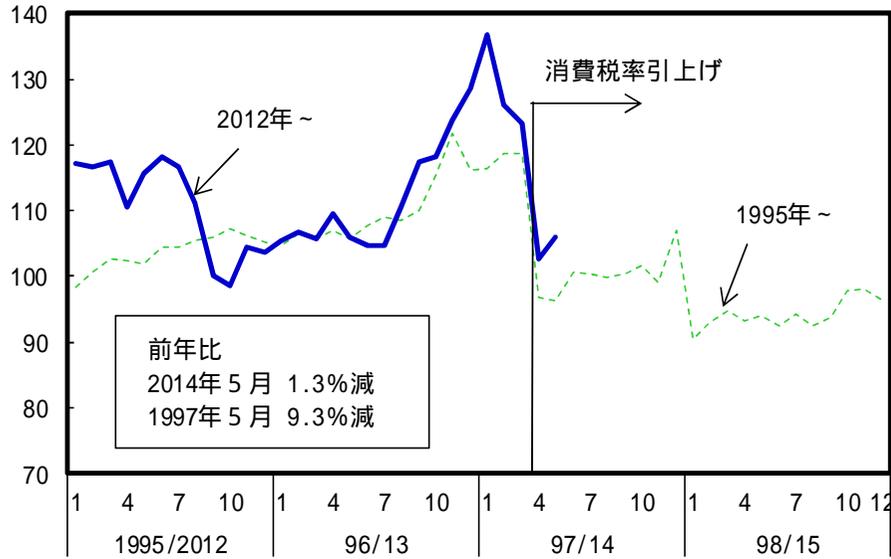
平成26年6月27日

内閣府

# 自動車・家電販売の動向

自動車販売は、5月は前年比で約1%減となり、4月からマイナス幅縮小。ただし、足下の受注は弱いので、先行きは慎重にみる必要がある。

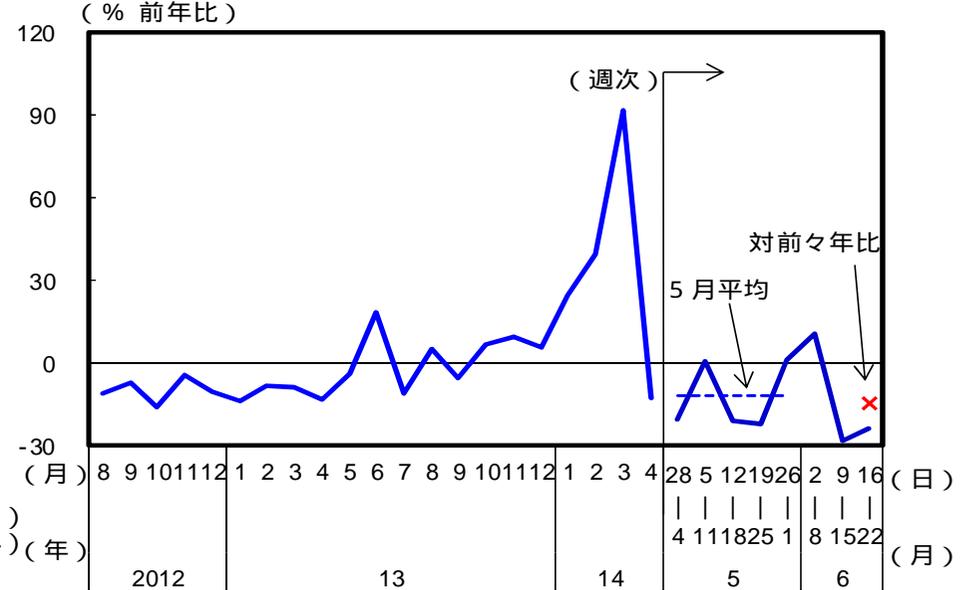
新車販売台数（含軽）（1997年頃との比較）



（備考）1. 日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会により作成。  
2. 内閣府による季節調整値を指数化したもの。

主要5品目の家電販売は、6月第3週では、一部地域で平年より気温が低く、前年が猛暑で売上が好調だったことから、前年比20%程度減となった。ただし、気温の影響を除けば、反動減から持ち直しつつある、との声も聞かれた。

家電販売金額（家電量販店主要5品目）（税抜）



（備考）1. GfKジャパン（全国の有力家電量販店販売実績を調査・集計）により内閣府作成。  
2. テレビ、エアコン、冷蔵庫、パソコン、携帯電話の5品目の合計。税抜き価格ベース。

自動車販売台数（除軽、登録ベース）について、6月第3週は、引き続き弱い動きとなっている。昨年は特定の車種が弱いため、このまま行けば、前年比は5月とあまり変わらないが、実勢としては5月よりも弱い可能性がある。6月に発売された新型車もまだ台数が出ていない状況。

【業界団体A】

軽自動車販売台数（届出ベース）について、6月第3週は、先週からあまり変化は無く、現時点で低調。ただし、通常、月末にその月の半分かくらいの届出があるので、まだ評価は定まらない。

【業界団体B】

6月第3週は、一部地域で平年より気温が低く、前年の売上也好調だったため、前年比マイナスとなった。全カテゴリーで見ると、前年比15%強と先週より改善。品目別では、エアコンなどは不調だったものの、掃除機などは好調だった。気温の影響を除けば、反動減からは抜け出しつつある状況と認識している。

【市場アナリスト】

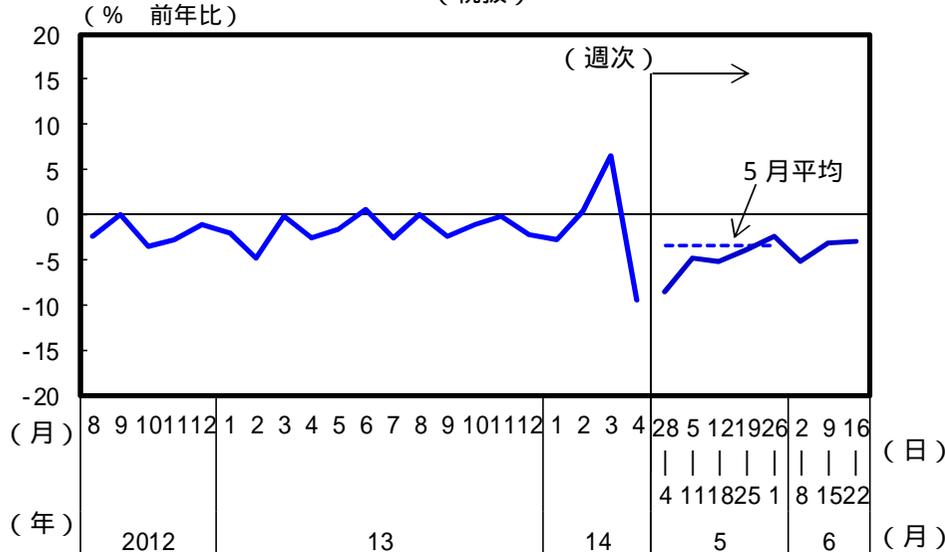
6月第3週は、一部地域で気温が高くなかったことや、前年の売上が好調だったことなどから、前年比マイナスとなった。気温や前年を考慮すれば、反動減からほぼ持ち直している、と認識している。

【家電量販店】

# 飲食料品・百貨店・サービス販売の動向

飲食料品は、6月第3週では、前年比約3%減と先週からほぼ変わらず。反動減から持ち直している、との声も聞かれる。

飲食料品（除く生鮮食品）販売金額（スーパー）  
（税抜）



(備考) 1. KSP（全国の食品スーパーマーケット販売実績を調査・集計）により作成。  
2. 加工食品、飲料・酒類、菓子類の3品目の合計。税抜き価格ベース。  
3. 既存店ベースのため、前年比が低めに出る傾向がある。  
4. 6月16日～22日のデータは、速報値。

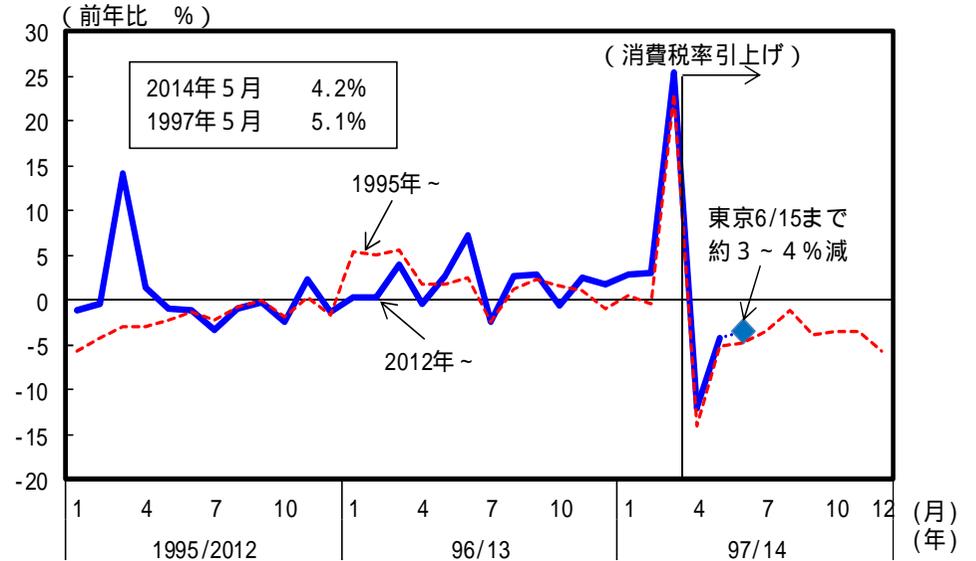
6月第3週は、週末に雨が降ったこともあり、前週よりプラス幅がやや縮小。最近の売上は、主に天候に左右されていることもあり、反動減からは持ち直している、と認識している。【食品スーパー】

サービス消費は、旅行は、6月以降も堅調に推移するものとみられる。外食は、消費税率引上げの影響は軽微であり、6月第3週も引き続き好調との声も。

客数減少などの動きは見られず、高価格帯商品の動きも良く、売上は前年比プラスを維持。【外食チェーン】

百貨店（東京）の6月15日までの売上高は、前年比約3～4%の減少となっている。6月第3週では、紳士衣料品・婦人衣料品ともに前週よりも改善したとの声がある。

百貨店売上高（税抜、既存店ベース）



(備考) 日本百貨店協会により作成。

紳士衣料品、婦人衣料品ともに好調に推移した。来店数は前年比ほぼ同じなので、単価が高くなっている模様。【百貨店A】

紳士衣料品、婦人衣料品ともに前年同期比のマイナス幅が縮小した。特に、ビジネスからカジュアルまで広く改善傾向がみられた紳士衣料品の動きが良い。【百貨店B】